

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100212
法人名	有限会社 美大
事業所名	グループホーム大河
所在地	宮崎市古城町長田5911 (電話)0985-50-1435
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年6月27日

【情報提供票より】(20年6月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 31 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費290円/日	
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	350 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	84.7 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	早稲田内科神経科医院 巴外科内科 いちはら医院 岡野歯科医院 中山歯科
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、田園地域にあり地元の方たちの散歩、小学生の通学コースにあり、環境的に恵まれた場所である。地域住民との関係も良く、花の苗植えの協力やホーム訪問、利用者の急な外出時の見守り声かけなど、地域から支えてもらっている。利用者は裁縫や椅子の作成、調理手伝いといきいきとしている場面が見られ、その姿を職員は共に喜び参加している。「職員の接遇の向上や介護技術の向上」を理念に掲げており、代表者は職員の質の向上に繋がるように、働きながら学ぶ研修の機会を確保し、職員がいきいきとやりがいのある仕事ができるよう職場環境を整えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	新規の開設で、今回はじめての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が取り組み、その後職員間で検討を行っている。評価の一連の過程、評価の意義について、職員も理解している。外部評価終了後、全職員で1つひとつの項目を見直し、質の向上に向け取り組みたいと意欲が高い。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を3か月に1回、自治会、老人クラブ、民生委員、利用者、家族が参加し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。地域にグループホームを理解してもらい、地域の協力を得るため、情報交換している。ホームが地域に還元できるよう、運営推進会議のメンバーにパイプ役になってもらっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2~3か月に1回の割合でホーム便りを発行し、利用者の日頃の様子を伝えている。個々の利用者ごとには、ノートが準備され家族に伝えたい日頃の様子を記入し、面会時や電話で洩れなく伝えている。家族会を年に2回開催し、家族からの要望や意見を出して頂き、その意見をホーム側はサービスに活かしている。家族からの意見は、代表者にすぐ伝わる体制が整っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との交流は、ホーム建設時から図れており、開所後も交流は頻繁である。自治会に加入しており、回覧板を活用しホームの行事案内を行い、地域の方々に参加してもらっている。帰宅願望や外出希望の強い利用者が外出した際は、地域の方が見守り声かけてもらうなどの良い関係が出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を大切に介護技術や接遇の向上に努めつつ、地域に根ざした明るく楽しいホーム」を基本に、住み慣れた地域で安心した暮らしができることを目標に作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、毎日職員引継ぎの際に言語化している。月に1回の職員会議時に職員に伝え共有化を図ったり、ケアの実践を通して理念を具体化し職員と話合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との交流は、ホーム建設時から図れており、開所後も交流は頻繁である。自治会に加入しており、回覧板を活用しホームの行事案内を行い、地域の方々に参加してもらっている。帰宅願望や外出希望の強い利用者が外出した際は、地域の方が見守り声かけてもらうなどの良い関係が出来ている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程、評価の意義について、職員も理解している。自己評価は全職員が取り組み、その後職員間で検討を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月に1回開催し、利用者の状態やホームの行事の報告を行っている。地域にグループホームを理解してもらい、地域の協力を得るため、情報交換している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員が運営推進会議に参加する以外に、ホームの現状や課題を報告し協力を求めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを発行し、利用者の日頃の様子や行事の際での様子を伝えている。利用者ごとにノートを準備し、家族に伝えたい日頃の様子を記入し、洩れなく伝えている。家族からの情報もこのノートに記入しケアにつなげている。預り金については金銭出納帳を記入し、定期的に家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回開催し、家族からの要望・意見出して頂き、その意見をサービスに活かしている。家族からの意見は、代表者にすぐ伝わる体制が整っている。家族から外灯設置や駐車場の舗装の要望があり、すぐに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・家族のダメージが少なくなるように、職員同士のすり替わりがスムーズに出来るように心がけている。職員の移動の理由や新職員の紹介は、家族会や定期的な便りを使い家族に伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が定着するため、職員の能力がアップするための教育には充分力を注ぎ、やりがいのある職場環境を整えている。年間研修計画を作成しどの職員にも研修の機会が得られている。毎月の職員会議の際には、看護師よりその時々で必要な勉強会や情報の提供がなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し参加し情報交換している。2か月に1回の割合で、他のグループホームと職員間の交換研修も行っている。他のホームの職員から頂いた意見も大切にし質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、見学をしていただき、利用者には、お茶を飲んだりして過ごしてもらっている。入居されたばかりの利用者の家族に対しては、しばらくの間面会を密に取ってもらうなどのお願いをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がいきいきとされている場面を大切に、利用者と共に喜ぶことを心がけている。利用者より調理の手助けやアドバイスをもらうなど、家庭的な雰囲気の中で職員や利用者が共に協力し合って良い関係を構築している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者ごとに担当があり、会話や生活の様子観察から、利用者が何を求めているのか考える努力をしている。思いの把握が困難な場合は、家族や利用者から聞き取った生活歴を元に、さらに職員間で検討し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の要望を取り入れ、担当者やケアマネで検討し作成している。毎月の職員会議では、全職員で話し合い補足修正している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月職員会議で見直しを行い、3か月ごとに介護計画作成を行っている。毎月の見直しは行っているが、記録には3か月分をまとめて記入している。見直しにあたっては、利用者ごとに担当があり、職員は家族・利用者の意向をくみ介護計画に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の暮らしが安心して継続ができるように、利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。ホテルを利用しての日帰り旅行も行い、日常生活の中で刺激が得られるような機会を作っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じたかかりつけ医から協力を頂いている。家族が、通院支援する場合は、情報提供書を記入し、家族、ホーム、病院の連携が図れるようにしている。往診や訪問看護の体制も整っている。AEDが設置されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして重度化や終末期に向けてのあり方に対して、職員全体会で説明し利用者ごとの検討もなされている。家族に対しても方針の意向は説明し希望を聞いている。職員会議時に、見取りに実際関わった職員からの説明も取り入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	特に接遇に関しては厳しく職員には指導がなされている。毎月の職員会では、言葉かけや利用者に対する態度、記録等の管理と教育がなされている。個々の職員に対しても、気になる言動行動が見られた際には、その都度説明している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来ない姿にするのではなく、利用者が出来易いようにサポートし、自信をつけてもらうことに力を注いでいる。利用者がどのように生活していきたいか、利用者・家族と相談・観察し支援している。訪問時も裁縫している方や調理をしている方、ベランダで職員と喫煙しおしゃべりを楽しんだりとその方に応じて支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑から取ってきた野菜を利用者に見てもらい、何の料理にしようかと働きかけたり、一緒に調理をしたりと食事をするまでの一連の過程を楽しめるように工夫している。食事は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。毎日のおやつも旬な野菜を使った内容であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴にはなっているが、利用者の希望で、毎日入浴される方もいる。他の利用者の要望も聞き、毎日の入浴支援をする場合、日頃の職員配置や利用者の日頃の生活の流れの検討も今後行いたいとヒアリングより得られた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物、食事の準備、調理、片付け、洗濯たたみ、掃除、裁縫、椅子作りと利用者の役割が準備されている。ホームの畑で様々な野菜が作られているが、その成長を見て楽しめるよう外に出る支援を行っている。ボランティアの踊りや幼稚園・小中高の学生との交流がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ほぼ毎日のように近隣の散歩を行ったり、近くの小学生の通学時に外出し交流を深める意味で外に出ている。利用者個別に応じ、買い物やドライブの機会がある。しかし、車椅子レベルの利用者に対しては、輸送車の関係もあり支援は薄いようである。	○	歩行困難な利用者にも車や車いすを利用して希望に応じて、戸外へ出る工夫をしてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の生活パターンを把握し、早めに気づき外に出るための支援している。管理者、職員は鍵をかけることの弊害を理解し、居室や玄関に施錠していない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、発火場所をかえての、避難訓練を利用者・職員と行っている。消防署からの訓練は1年に1回取り組んでいる。災害時、避難協力体制も地域から得られている。ホームには、職員手作りの滑車付移動具も準備され対策を講じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量に関して把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。利用者に応じた、食事形態にしており、ソフト食を取り入れている。協力医の栄養士からメニューを見ていただき、アドバイスをもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は広くとってあり開放的である。職員が見守る中、利用者が裁縫や日常生活訓練が出来る環境が整っている。利用者が作成した椅子やタペストリーなどが、目につく所に設置かれ、意欲をかき立たせる配慮がなされている。室内は清潔で、衛生管理も充分行われている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、お位牌や専用椅子、テレビ、化粧道具が準備されていたりと使い慣れた持込もあり工夫している。		